

進路を考える会 2015年議事録

2015年6月14日（日）開催

※左上のマークをクリック後、その下に出る2つのマークのうち右側をクリックすると目次が表示され、直接ご希望の分科会を選択できます。
※環境・条件により、操作方法は上記と異なる場合もあります。

目次

①文系・国際系	P. 2 (2)
②人文・社会科学系	P. 4 (2)
③法学・政治・経済系	P. 6 (2)
④美術系	P. 8 (2)
⑤音楽・舞台芸術系	P. 10 (2)
⑥栄養・看護系	P. 12 (3)
⑦理系	P. 15 (2)

平成27年度「進路を考える会」文系・国際系 議事録

開催日時 平成27年6月14日(日) 10:00~12:00

場 所 2階 会議室

参加人数 89名

担当教員 2名

招聴生 3名

Aさん 横浜市立大学 国際総合科学部 国際総合科学科(国際教養学系) 指定校推薦

Bさん 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 一般入試

Cさん 上智大学 総合グローバル学部 総合グローバル学科 一般入試

(以下 敬称略)

・進路を決定した時期とその大学を選んだ理由

A:国公立大学を年頭にスペイン語を学びたく外語大を考えたが、言語より文化を学びたく3年の夏に決めた

B:2年の夏にオープンキャンパスに見学の後、リベラルアーツはICUにしかなく入学後に方向を考えることができ且つ英語が学べることから3年の秋に決定をした

C:筑波大学国際系も意識をしたが、上智大学の新しい学部(2年目)となるグローバル&ローカルは大学が小さくいろいろな学部の人と交流ができ、刺激をもらえと思い3年の7月に決めた

・入試形態(AO入試、センター試験利用など)併願校の選び方

A:指定校推薦

B:AOか一般入試となるが、3教科での入試 併願校はMARCHと東京女子大

C:公募推薦、センター試験、一般入試を受ける。TEAPにて入試。併願校は青山、立教、明治をセンター試験にて受験。上智は一般の結果の後、TEAPにて合格。

・具体的に受験勉強を始めた時期はいつか

A:2年の1月頃から

B:2年の1月頃から

C:2年の3月頃から

・どのような勉強方法か(塾、通信教育の利用、おすすめ参考書、勉強のペースなど)

A:東進予備校 過去問をひたすら解く、学校の授業をしっかりと聞く

B:通塾せず、通信教育(進研ゼミ) 過去問、文法の本、英語長文の読む力をつける

C:通塾せず、学校のガイダンスルームにて先生に指導いただいた。教科書、問題集。無駄な勉強は一切ないので授業はしっかりと受ける

・模試を受けたか、またどのように活用したか

A:センター模試を受け返却されたら自己採点をし、ミスを確認する

B:私立、国公立模試を5回、ICU模試を本番同様に受けた

C:併願をセンター利用し、模試はマーク式を利用し、受けた後は自己採点、分からないところは付箋を付けて覚えた

・神奈総の特性をどういかしたか(単位制、履修科目)

A:他校では高校3年は受験勉強一色だが、異なる学年と一緒に学び受験勉強に捉われず役に立つ身に付く学びがあり、今の大学での学びに役立っているため、無駄な授業は一切ない。

C:先生と親しくなれ、居場所があり分からないところは、とにかく教わる。

・部活動、委員会、行事との両立についてのアドバイス

- A:部の活動があると、毎日通塾出来ないので、その時には、家での学習。宿題は必ずし、土曜日、日曜日は受験勉強に費やしていた。また、授業は一言も漏らさず集中して受けた
- B:3年の7月まで部活動をしていたため、両立が難しかったが、部活と勉強とのメリハリをつけ、土曜日、日曜日は進研ゼミ、平日は宿題をしっかりとこなした
- C:勉強、部活、支援活動、マーチング、アルバイトと全部が楽しく、全てを中途半端にはしたくなかった。応援してくれる人に答えたい気持ちから受験も落ちたくなく絶対受かるという気持ちを持ち、隙間の移動時間も単語帳での暗記など上手く時間を費やした。

・受験を振り返っての感想

ABC: 授業を大切に受けてきたから、受験が辛くても乗り越えられた。

・入学してみたの大学の感想（授業内容、学校生活全般など）

- A:週に3回英語レベル別の授業、日本人の先生も一切日本語は話さず英語のみ
- B:ELA→英語で考え読み書き話す。
- C:中東を研究したく、中東学、アラビア語を学んでいる。授業、サークル、マーチング、アルバイトを行っている。神奈総で学んだことが、役に立っている

・現役性へ是非伝えたいこと

- A:神奈総での生活をひたむきに、授業、宿題、行事をこつこつとこなすことで、日頃の努力が成績に繋がる。支えてくださる人に感謝を忘れないでください。
- B:目標を高く持ちあきらめない。その思いと努力で成果をつかみ取る。
- C:模試の判定がDでも関係ない。受けてみないと分からない。12月の時点でBでも当日まで学力は伸びる。大学生活をイメージすると強いモチベーションになる。

・保護者にしてもらい良かったこと、いやだったこと

ABC: 良かったこと

- 夜食やおやつ、温かい飲み物の差し入れ
- 受験の不安などを聞いてくれたこと
- テレビを一緒に見て他愛もない会話が出来たこと
- 上を目指せと言ってくれた一言がプレッシャーに感じず更に上を目指す気持ちになった

いやだったこと

- ×急に家事をやらされた時があった
- ×家族で外出をする際誘われたが、行きたくても勉強があり行けないので誘いの声かけをしてほしくなかった
- ×国公立を目指せと言われ、家庭での経済的なことも考えわかっていたが、プレッシャーになった。

以上

2015. 6. 14(日曜日)開催「進路を考える会」 人文・社会科学系 議事録

司会 五十嵐先生

招聘生 Aさん・・・横浜国立大学 教育人間科学部 学校教育課程
Bさん・・・早稲田大学 文学部 文学科
Cさん・・・明治大学 情報コミュニケーション学部 情報コミュニケーション学科

Q：進路を決定した時期とその大学を選んだ理由は？

Aさん→英語が得意だったので神奈総に入学。中学生の頃から英語の教員になりたかった為、近くにある教育養成大学の横国大を意識。2年冬から志望校として考える。国公立しか考えなかったのが私立大のオープンキャンパスは行っていない。

Bさん→単位制であることと、オープンキャンパスの雰囲気ので神奈総を目指し入学。大学は、国公立、MARCOHを含めた私立大のオープンキャンパスに参加。結果、早稲田と明治に絞った。将来、出版社に入りたくて学部は文学部を選択。

Cさん→「ホールスタッフ」をやりたくて神奈総に入った。舞台制作に興味がある。2年夏頃から早稲田、明治、青学等のオープンキャンパスに積極的に参加。早稲田と明治、どちらも合格したが特待生（奨学金がもらえる）になれたので自分の意志で明治大学に入学を決める。

Q：どのような入試形態でしたか？併願校の選び方&決め方などをお願いいたします。

Aさん→一般入試。推薦を受けたが不合格。併願は文学部英文学科。

Bさん→一般入試。併願校は明治大文学部、東洋大社会学部。

Cさん→一般入試。センター利用。

Q：受験勉強を始めた時期はいつですか？

Aさん→2年冬から。

Bさん→2年夏から。

Cさん→2年夏に少しやって、本格的には3月頃から。

Q：どのような勉強方法ですか？

Aさん→塾は東進を利用。センター対策として過去問をひたすら解いた。理科は過去問がないので塾の問題集を利用。苦手な教科は塾を利用すると良い。3年次冬休みは1日14時間勉強していた。前日夜に次の日の予定を立ててから寝るようにした。

Bさん→塾は東進を利用。長い期間の目標と短い期間の目標を立てていた。塾では朝1日の予定を立てることでスムーズに勉強が進んだ。英語は東進を活用。日本史は「一問一答」「実況中継」。あとは内野先生の授業がよかった。過去問は3年次夏前に解いておくといよい。

Cさん→進研ゼミを活用。塾は夏期講習を利用。日本史は山川の教科書を丸覚えするつもりで。あとはやはり内野先生の授業。一つの問題集を10周した。1か月、1週間単位の計画をそれぞれ立てた。

Q：模試を受けましたか？どのように活用しましたか？

Aさん→センター模試を毎月受けた。模試の復習が大事。

Bさん→2か月ごとに模試を受けた。点数に一喜一憂しない。勉強方法の指針となる。

Cさん→学校申し込みのセンター試験模試を利用。定期的に受けることで勉強のサイクルをつくれる。

Q：神奈総の特性をどう生かしましたか？

Aさん→フィールド科目はなるべく2年次にとり、3年次は受験に必要な科目に絞ると良い。ガイダンスルームで赤本を印刷して活用。

Bさん→3年次は週2日間（木、金）に授業をまとめ、あとは受験勉強時間にあてていた。午前中はガイダンスルームで勉強。午後は塾へ。鈴木久美子先生の古典が良かった。3年次前期、「現代哲学入門」を履修したことで視野がひろがり、自分としては最も役に立ったので受験科目以外のものもお薦め。

Cさん→1～2年次は学校の授業を大切にしていた。2年次から英文法をしっかりと勉強。「数ⅡB」も履修。3年次は受験科目以外の「映画」も履修したが自分としては楽しい時間だったので履修して良かった。ガイダンスルームは活用した。

Q：受験期、スマホの利用はどうされていましたか？

Aさん→週一回のみ充電し、切れたらそのまま放置。

Bさん→元々そんなに利用していなかったので受験の前でも使い方は変わらなかった。

Cさん→スマホの調子が悪かったのもあって朝メールのチェックをするくらい。

Q：部活、委員会、行事等の両立についてのアドバイスはありますか？

Aさん→行事は楽しんでください。めりはりをつけると良い。

Bさん→翔鷗祭期間中はとても楽しく、勉強出来ず。でもそれでその後の切り替えが出来て良かった。

Cさん→行事に熱心だった人が受験でも良い結果を出している傾向がある。

Q：受験をふりかえってどうですか？

Aさん→大学で人生が決まるわけではないので気負い過ぎないように。最後まで気を抜かず、あきらめないことが結果につながった。

Bさん→自分に合った大学に行って欲しい。難関大学が自分のやりたいことができる場所とは限らない。

Cさん→塾には行かなかったのが神奈総の生活を楽しんだ。3年次は充実させて勉強自体を楽しんでください。

Q：大学の感想はいかがですか？

Aさん→大学は楽しい。神奈総とは違う楽しさがある。

Bさん→専門的に学べるのが楽しい。

Cさん→大学は研究機関。やりたいことを学ぶ設備と時間にお金を払っている感じ。

Q：現役生に伝えたいことは？また保護者にも何かあれば。

Aさん→現役生へ。1年次は基礎を大切に。2年次の夏から私立の教科を始めると良い。3年次は行事以外は勉強に集中すること。保護者へ。自分はネガティブなタイプだったので落ち込んだ時など励ましてもらって嬉しかった。子供の性格に合わせて声をかけてほしい。

Bさん→現役生へ。学力はやれば上がるのは確か。ただ現役生は時間がない。時間をどう使うかが大事。前準備は大事。風邪インフル対策等。受験会場の下見はしておくべき。無駄な努力とならないような自分に合った勉強方法を見つけること。保護者へ。子供の意志を尊重して欲しい。受験期も普段通りの生活をしてくれたことが良かった。

Cさん→現役生へ。「現役生は勢いがある」と言われるがその通りだと思う。目標を失って勉強できない時期があったのは反省点。保護者へ。我が家では基本放置してくれたことが良かった。また家でおしゃべりができるのも良かった。模試の点数が上がったなどの自慢話も親にならできる。

『進路を考える会』 法学政治経済 議事録

2015年6月14日(日) 702室

司会・高橋先生

招聘生

Aさん・・・青山学院大学 法学部法学科

Bさん・・・慶応義塾大学 総合政策学部

Q. 進路を決定した時期と大学を選んだ理由は？

Aさん：3年生の11月頃、法学部でも弁護士系以外の事も学べる。

Bさん：3年生の11月頃、学部の中で様々な内容が学べるのが魅力で決めた。

Q. どのような入試形態でしたか？併願校の選び方、決め方なども聞かせて下さい。

Aさん：一般入試。

少し低めの大学も受験して合格することも安心感がでて本命につながる。

Bさん：一般入試。AO入試も考えたが、早い段階で一般入試に切り替えた。

センターの結果が良くなかったが、本命に絞って最後まであきらめずに頑張った。

Q. 受験勉強を始めた時期はいつですか？

Aさん：1, 2年生は部活(軽音部)と行事に打ち込んだ。3年生4月～部活引退後に予備校に行きはじめ本格的に受験勉強を始めた。定期テストはきちんと取り組んでいた。

Bさん：3年生になって本格的に受験勉強を始めたが、通学時間が長かったので電車で英単語や古文単語を覚えた。スマホのアプリを上手く利用した。

Q. どのような勉強方法でしたか？

Aさん：3年生の部活引退後から苦手科目は河合塾に入り、現代文、古文、英語(長文)を受けた。世界史は、高橋先生の授業に集中した。

Bさん：1年生から数学だけ塾にいていた。その後科目を増やしたが、3年11月に塾を辞めた。

自分には塾が合わないと分かり、それからは自分で勉強した。空き時間は、フリースペースで勉強した。

Q. 模試は受けましたか？どのように活用しましたか？

Aさん：3年生になってから4～5回受けた。毎回試験の場所を変えて慣れるようにした。

Bさん：模試は1年生から数回は受けていたが、3年生では3回受けた。

Q. 神奈総の特性をどう生かしましたか？

Aさん：国公立も視野に入れて履修を取っていた3年生も空き時間は少なかったが、足りないところは塾に行き補った。

Bさん：テーマ研究にした、経験したことを伝え共に考える表現教育について実践している。

Q. 部活、委員会、行事等と勉強の両立についてのアドバイスを聞かせて下さい。

Aさん：1，2年で軽音部の部長を務めた。とても充実した日々を過ごしやり切ったのできっぱりと切り替え、引退後は勉強に集中できた。

Bさん：無理をしたことで体調を崩したこともあり、自分には何が本当に必要かを見極めることも大事。自分のペースが分かってからは勉強に集中できた。

Q. 受験を振り返ってどうですか？

Aさん：1～2年生は定期テストを頑張った。受験は基礎が大事なので毎日の積み重ねが必要。得意科目で攻める受験戦略も考えた。

Bさん：受験する大学の現役先輩から沢山情報もらった。すごく役立った。

Q. 親との関わりについて

Aさん：放任主義でうるさく言われなかったのが勉強に集中できた。親には感謝している。

Bさん：体調を崩したことで親にも相談できるようになり、色々な面で助けてもらって有難かった。感謝している。

Q. 大学の感想はいかがですか？

Aさん：大学でボランティア活動に関わり、地域活性化に貢献できるような仕事に就きたいと思うようになった。とても充実している。

Bさん：大学では地域の交流活動ボランティアをしている。経験したことを伝え共に考える、テーマ研究にした表現教育について実践している。

「質疑応答での質問」

**Q. 大学の資料など請求して見るとみな同じように見えてどこが良いかわからなくなりますが…
(20期生徒)**

オープンキャンパスに行って実際に自分の目で見て感じる事が大事

Q. 部活との両立に不安 (20期生徒)

体調を崩した経験があるからこそ無理するのはつらいこと、自分には何が本当に必要かを見極めることも大事

平成27年度「進路を考える会」美術系 議事録

- 開催日時 平成27年6月14日(日)10:00～12:00
- 場 所 7階 705学習室
- 参加人数 29名 (生徒 13名、保護者 19名)
- 担当教員 松田先生
- 招聘生 2名
 - Aさん 多摩美術大学 美術学部 グラフィックデザイン学科 <18期卒業生> 現役合格
 - Bさん 東京藝術大学 美術学部 芸術学科 <18期卒業生> 現役合格

～今の進路を選んだ理由～

Aさん:小さいころから好きで自然に美大へ。高2くらいから本格的に学科等考えるようになった
美大の中で就活に強い大学にしぼった

Bさん:高2くらいから意識
クラシックバレエや絵画が好きで、一般大学から美大に変更
実技を学ぶ人達からの刺激を受けながら、理論的なことを学ぶ。論文中心に藝術全般を学ぶ

～受験校、入試形態～

Aさん:多摩美、武蔵美 2校 同校他学科も受験
平面系を第一志望 グラフィックから派生した他学科受験
国語・小論文、英語リスニング、実技・デッサン/平面構成

Bさん:藝大のみ
センター3教科 英語小論文、2次試験あり、小論文・デッサン等

～受験勉強～

Aさん:実技:2年次春から予備校へ、3年から本格的に受験対策
やり直しを描き直して予備校へ持っていったり、2、3回同じ課題を描いたり、自分で工夫
学科:3年次から実技の空き時間に予備校の英語講座や赤本、単語を自習
模試:3年次夏から入試本番に似た実技コンクールを予備校で受けた。学科は受けず実技に注力
3年次は、空きの90分を利用し、フリスぺで赤本・予想問題を解く
1年次から美大を考えていたので1、2年次で必修修とり3年次で空きを作れた

Bさん:学科:3年次スポ大の後から 藝大用予備校に通い添削を受けたりした
模試:月1回センター模試受験で計画的に勉強できた
赤本を完璧に!3年次後期、赤本含めありとあらゆる問題解いた
神奈総の先生にも添削をお願いした

～部活や行事との両立～

Aさん:M&Dとイラスト部。3年も行事には参加(スポ大は参加種目を絞り、パネル作成は土曜に集中)
Bさん:シフォン。3年の翔鷗祭まで楽しんだので短い時間で集中した。

～受験を終えて～

Aさん: 秋ごろ焦りやイライラで精神的にだめだったが、家族や予備校の先生などまわりのサポートで入試前は落ち着いてできた

Bさん: 文化祭後からしっかりと取り組み、ガイダンスルームでみんなから刺激受け、冬休みには問題を解くのが楽しかった

～大学生活について～

Aさん: AM→基礎実習 PM→講義 課題が多い学科なので持ち帰ることもある
講義の授業も社会運用や社会貢献にからめて学べる

Bさん: 芸術学でも実技あり、作品を見るときに役立ち、実技も楽しんでいる
実技からの転向や年配の方がいたり、個性的で人との関わりが楽しい

～後輩に伝えたい事～

◎いろいろな経験をして学校生活を楽しんでほしい

◎受験勉強だけでなく、自分の見解を広げる意味でも勉強はした方がいい
図書館の利用、美術史とか解説本を読む等

◎特殊な知識や技能が必要なので予備校は通った方がいい

◎AO や推薦は少なく実力重視なので内申はあまり関係ない。奨学金をとりたい場合は、3.5 は必要

◎体調管理をしっかりする、ストレスためないよう息抜きもして

◎スマホは、受験の妨げに。なるべくツイッター禁止、ラインも消して。他の人が先に受験が終わっても頑張る。

～質疑応答～

Q: 学校と受験勉強との両立について

Aさん: 大変だけど自分の好きなことをしながらリフレッシュ 絵を描く楽しさを忘れずに

Bさん: 絵を描くときは集中する。自信を持って

Q: 予備校について

Aさん: 菊名アトリエ 1、2年は通学日数の融通がきく。3年は週5日

一人ずつしっかり講評あり、友達もいたので決めた

Bさん: 3年春から新宿の河合塾美術研究所 週1回 1日中

パンフレットを見比べ、合格者実績、現役藝大生が先生 添削の丁寧さで決めた

Q: 親がしてくれてよかったことは？

Aさん: あまり口出しせず、オープンキャンパスの情報等調べてくれたこと、美味しいご飯を作ってくれたこと

Bさん: 食事の気遣いや送り迎え、病気になったときのフォロー(会場まで薬を届けてくれた)

以上

2015年『進路を考える会』音楽・舞台芸術系 議事録

2015年6月14日(日) 704教室

司会・中川先生

招聘生

Aさん・・・東京音楽大学 声楽専攻声楽演奏家コース

Bさん・・・多摩美術大学 美術学部演劇舞踊デザイン学科

Q:進路を決定した時期とその大学を選んだ理由

Aさん:高2。音楽系に進むには遅かったと思う。声楽を始めたのも遅かった。オープンキャンパスで大学の先生のレッスンを受け、感触が良かった。

Bさん:高3の夏。はじめは多摩美の別の学科を希望していた。身体表現の授業を通して舞踊、演劇を同時に学ぶことが出来る。自分のやりたいことが出来るので選択。

Q:どのような入試形態でしたか?併願校の選び方

Aさん:今の大学は併願。一般入試。センター利用。(東京音大は外国語—英検準2級以上で免除) 声楽、ピアノの実技試験。

Bさん:一般入試。センター利用。実技試験。(併願…日大芸術学部映画学科。一般入試のみ)

Q:勉強を始めた時期はいつですか?どのような勉強方法でしたか?(参考書など)

Aさん:ピアノは3歳～。高1の2月末～声楽の実技。

楽典、ソルフェージュは声楽の先生に教わったり学校の授業でとっていた。

一般の勉強は学校の授業のみ。実技ばかりやりがちだが、センターを受けるなら、その勉強をすることも大切。コンクールにもたくさん出場した。実際に歌う感覚やホールでの声の響き方、他の人の歌い方など参考になる点も多い。

Bさん:実技試験は対策のしようがない。とにかくたくさん経験(部活)し、舞台を観に行くこと。

多摩美は「野田秀樹」さんが講師なので、多摩美を受けるなら彼の著書を読んでおくと傾向対策になる。英語、国語は1年生の頃からしっかりとやっておく。(ターゲット英単語、解答が大きくわかりやすい問題集等)

Q:模試は受けましたか?

Aさん:センター模試を一度も受けなかったのが後悔。試験時間や雰囲気を経験した方がいい。

Bさん:高3で初めて受けた。進路が決まっていなくても受験に対する意識が変わるので、早めに受けた方がいい。今の自分のレベルを知ることが出来る。

Q:神奈総の特性をどういかしました?

Aさん:音楽系の実技は授業でたくさん取れます。空き時間に練習室を使って練習していた。フィールド発表の場も活用。

Bさん:専門学校か?と思うぐらい専門の授業が多い。「基礎演技」「身体表現」の授業は是非。

Q:部活、委員会、行事との両立についてアドバイスはありますか?

Aさん:M&Dで活動。3年生で引退。レッスンに間に合うように時間をしっかり管理した。

Bさん:M&Dで活動。スポ大でもいろいろと仕事をしていて忙しかった。演劇をすることは実技対策

になったが、勉強が手につかなかった。→全力でやることもとても良い経験だったと思う。

Q:体調管理はどうしていましたか？

Aさん：体調管理は大切。ちゃんと食べてちゃんと寝る。演劇も声楽も体力とのどが大切。(マスク、ポケット加湿器、水分補給、など)

Bさん：無理をしがちだった。体調管理は大切と今実感している。身体表現なので柔軟や筋トレで体力をつける。

A、Bさん→本番当日にベストなパフォーマンスが出来るように2週間前ぐらいから当日に向けた生活計画を立てよう。

Q:芸大を受けるのにピアノの比率は高いですか？

Aさん：長調、短調の音階を確実に弾けるように。ソナチネ以上は必須。少なくともミスタッチがないように。楽典、聴音は過去問をたくさんやる。基礎はしっかりと。

先生から：芸術系の大学は学校によって特徴があるので、何校も受験するのが難しい。芸大は基礎が出来て当たり前。それ以上を求められる。

Q:大学の授業はどんな感じですか？

Bさん：「野田秀樹」(演劇)さんと「勅使河原三郎」(舞踊)が主に指導なので、2人流のやり方。古典的なものより現代的でよく動く。まずは声！体力！柔軟！

Q:大学を選ぶ時の情報収集は？

Aさん：習い事の先生。先輩から話を聞く。ネットも活用。自分から積極的にアプローチを！

Bさん：先輩からの話を聞く。オープンキャンパス、授業を見学。実際に行くことは本当に大切。

Q:大学で学んだことをどう活かしていくのか？将来は？

Aさん：役者をやりたくて、歌のスキルが必要と思い音大へ入学。就活とかは考えていないが、教員免許取得を万が一に備えて考えている。

Bさん：就活は考えていない。今は悩んでいる。役者だけではなく、舞台スタッフ、衣装など4年間の大学生活で考えたい。

先生から：神奈総の良いところは、色んな人と一緒に学べるので色々は価値感や考え方が身につく。好きなことを続けながら関連したことで働いている人の見本は神奈川総の講師や大学の先生方にいる。

Q:保護者にしてもらい良かったこと、嫌だったことは？

Aさん：自由にさせてくれたこと。コンクールや発表会に来てくれて、ほめてもらったことが励みになった。「絶対に受かれ」とプレッシャーをかけられたのは嫌だった。やさしく接して欲しい。

Bさん：勉強のために1人部屋にしてくれた。気分転換にたくさん話を聞いてくれたのが良かった。「浪人するな」「本当に大丈夫なのか」と言われ、プレッシャーだった。

Q:現役生にひとこと！

Aさん：今は神奈総と違って「音楽しかない」という人に囲まれての生活。高校生活も楽しかったが別の楽しみを感じられるので頑張してほしい。

Bさん：入試は大変だが得る物も多い。自分のやってきたことを信じて「自分が1番輝いている」「絶対大丈夫」そのくらいの気持ちで望めば結果にも出る。

平成 27 年 6 月 14 日「進路を考える会」 分科会 栄養・看護 議事録

・司会 今井先生 佐々木先生 ・参加者 保護者 5 名 生徒 4 名 ・706 学習室にて

・招聘生自己紹介

A さん 神奈川県立保健福祉大学 栄養学科

B さん 神奈川県立保健福祉大学 看護学科

C さん 東京医科歯科大学 保健衛生学科

・進路を決定した時期と理由

A 高 2 秋 管理栄養士の合格率、就職率が良かった。

B 高 1 秋に看護、高 3 に大学。受験の科目が少なく、オープンキャンパスに行き決めた。

C 高 3 春に看護、高 3 秋に大学。

・入試の形態、併願の選び方

A 一般前期 センター 5 教科 (併願) 東農、東家政、鎌女→センター利用

B 一般前期 センター 4 教科 (併願) 北里、日赤、昭和

C 公募推薦 2 時間 1400 字の小論文・面接 →推薦だったので、併願は受けてない。

・受験勉強を始めたのは？

A 高 3 9 月

B 高 2 秋冬あたり

C 高 3 春

・具体的な勉強方法

A 塾には通わず、自宅学習→進研ゼミ。早朝勉強。歴史・倫理はマンガ形式が良かった。英単語、古文は、通学中にした。

B 高 2 秋から塾 (受験科目全部) 英文法→next stage がお勧め。

C 高 3 春から河合塾 (英数) 塾のテキストを何回も繰り返しやった。面接、小論文は学校でやった。

・模試の利用

A 高 3 の 10,10,11 月 返却後、解説を見ながら、何回もやった。

B 高 2 ~河合塾の模試 返却後は、解き直しをした。

C 高 2 ~河合塾の模試 平均点に届いていないものから順番に勉強した。

・ 神奈総の特性をどういかしたか？

- A 研究科目をたくさんとった。小論文・面接は、学校の制度を利用。
- B カリキュラムの空きに勉強した。カリキュラムセンターで赤本をやった。
- C 小論文・面接は、学校の制度を利用。空き時間に受験勉強した。

・ 部活・行事などとの両立は？

- A 水泳部に所属 隙間時間に勉強した。
- B 吹奏楽部に所属 3年生から勉強に集中。
- C 部活には、所属せず、行事・バイト 隙間時間に勉強。予習・復習は毎日やった。

・ 受験を振り返って

- A 「やりなさい」と言われるのが嫌なタイプ。試験は高校で習った事が出るので日頃の学校の勉強をやっていた。
- B 周りに頑張っている人がいないとダメなタイプなので、人のいる所で勉強した。
- C 推薦は落ちたら、一般を受けなくてはいけないのが、大変だった。早めに、コツコツ勉強しておけば良かった。

・ 大学に入学しての感想は？

- A 1年は教養科目ばかり。栄養に関する授業は週に1回。2年から専門科目が増えてくる。授業はびっしりあるが、サークルもバイトもしている。
- B サークル・バイトは、殆どの人がやっている。ボランティアが盛ん。
- C 面接を受けて入学してきた人ばかりなので、みんな意志が強い。

・ 後輩に伝えたいこと

- A 栄養に進みたい人は、化学を履修することをお勧め。受験勉強は、メリハリをつけて、息抜きもいいと思う。
- B 推薦を受けたければ、1年次からコツコツ勉強しておく。行事・部活を頑張れば、勉強もその分頑張れると思う。
- C 自分を信じてあげる人間になって欲しい。“絶対やればできる”

・ 保護者にして貰って、良かったこと、嫌だったこと

- A 黙って見守ってくれて良かった。「してるから大丈夫だよ」と言われて良かった。
- B 何も言われず、進路を決めたのが自分だったから頑張った。
- C 母のちょっとした気遣いがありがたかった。(コーヒー、湯たんぽ) 弟とのw受験だったので、途中から塾代は自分のバイト代から払ったのが、嫌だった。

・大学に将来研究したい人はいる？

- A 栄養の教授からは最初のガイダンスで、「博士まで取って、日本のトップになりなさい。」と言われた。
- B もっと深めたいと言う興味はある。とりあえず、臨床をしてから、考える。
- C 10%位の人が研究に進むようだ。

・勉強のモチベーションを持ち続けるコツは？

- A モチベーションに波があった。落ちている時期が短ければいいのでは？大学に入りたい気持ちがあれば良い。
- C 怒られるだけでなく、ご褒美があればいいかな。

2015年6月14日開催 「進路を考える会」 理系 議事録

担当教員 川亦先生・丹先生

招聘生 Aさん 東京工業大学 第5類
Bさん 首都大学東京 都市環境学部 都市環境学科
Cさん 早稲田大学 創造理工学部 建築学科

Aさん 高校では弓道部に所属。御本人曰く、部活動との両立はできていなかった。しかし、部活動をしていても工夫次第で勉強時間は取れるはずだから頑張してほしい。浪人生活を経て東工大に合格。予備校に通わせてくれた親に感謝している。通っていった駿台予備校では、模試を積極的に利用し、判定結果よりも見直しを重視。記憶が曖昧にならないうちに解き直しをしていた。東工大ではセンター試験は足切り判定に使うのみなので二次試験の科目に力を入れて勉強。理系は数学と同じ位英語が重要になってくる。また、早い段階から志望校を決め、入試に必要な科目に重点をおいて勉強すると良いと思う。時間の取れる夏休みはとても重要で受験勉強に打ち込んだ。

Bさん 高校では陸上部に所属。行事にも積極的に参加していた。兄と見学に行った首都大学の雰囲気良かったので学科よりも先に志望校を決定し、高3の夏頃学科を絞りこんだ。一般公募推薦で首都大学に合格。志望動機が弱かったので苦労したことに加え、入試では小論文があった。小論文対策は1カ月やそこらで何とかするものではないので、早めに対策をすると良い。塾は東進へ。入学して周囲の友人に開示の結果を聞くとセンター試験で高得点の人が多い。センター対策も大事だと思う。日頃の勉強をきちんとやる事が受験勉強への第一歩。(特に英・数)日々コツコツやる事で記憶が残り受験の為に一からやり直す必要がない。小さな目標を万全に。その指標として学校のテストに取り組んでいた。電車に乗っている時間やスマホを触る時間を5分でもいいから単語を覚える時間に充て、とにかく勉強する習慣をつけてほしい。口と手・耳を使って勉強に取り組んだことは大いに役立っていたように思う。母親からは受験の当日も発表の日も何も言わずに普段通りに送り出されたことが有難かった。大学に入ると大人からのアドバイスはないと思って良い。先生方からたくさんのサポートを受けられる高校時代に様々な事にチャレンジしてほしい。

Cさん 高校時代は部活に入っていなかった。米留学経験を経て高2より神奈総へ。第一志望は東京藝大のデザイン科。一般入試で早稲田大学に入学。理系は授業が多く忙しいが大学生活は充実していて楽しい。塾は代々木ゼミナールへ。また、第一志望が藝大だった為、土日は美術系の予備校へも通っていた。理系は絶対にビリギャル無理！高1生も今から勉強に取り組んでほしい。留学していた為、英語の勉強には苦労しなかった。話すことができれば英語は必ず解けるようになる。ネイティブの先生もいらしてプレゼンテーションの力をつけることもできる神奈総の英語の授業は大変良い。また、授業の選択次第ではどの公立高校よも入試対策ができる学校だと思うので工夫して勉強に取り組んでほしい。早稲田の建築学科を目指すならデッサン力がある程度はあった方が良い。なかったら入学してから苦労するかもしれない。また、AO入試では特に絵が重要視されるようだ。

三人の先輩方は同じ理系でも受験方法が異なっていた為、様々な意見が聞かれたが、勉強に関しては少しでも早くから準備すること、空き時間を利用して勉強の習慣をつける事、理系でも数学と同じ位、英語の力が必要という意見は共通していた。また、沢山の赤本が揃っている神奈総のガイダンスルームや先生方の準備室へ伺ってわからない所を教えて頂いたという声も聞かれた。進路について考える良い機会となり、お忙しい中都合をつけて参加して下さった先輩に心から感謝したい。